



声 みんなのひろば



加藤茂信 (坪田3区)

	知	
	恵	を
ま	ち	づ
く	り	

米子の土地を離れたのが昭和28年、今から58年前の事でした。長い間の関西での生活に終止符を打ち、山を仰ぎ見、海を眺められる大山町に移り住んで早くも12年が経ちました。

転居したときはまだ名和町でしたが、時の流れで市町村合併の中で地名も大山町と変わり、街もよ

うやく地名が落ち着いてきたような気がします。

米子という街に近く、買い物、病院、娯楽などと都会に有るような生活には事欠きませんが、車社会での事、高齢社会となつて来るとそれがだんだん出来なくなり、どのような生活になるかと心配が増えてきます。

大山町の将来、米子の衛星都市としてのまちづくりはどう有るべきか。

米子から自動車専用道路で20分そこそこの利点、金を掛けずに智恵を出す良い機会だと思います。高齢社会の住宅とその環境に思いを馳せたまちづくりはどうでしょうか。

良い環境に住み着き、年寄りの冷や水です。たまには違った考えを左の耳から右の耳に通してみたいかがですか。



清水 覚 (下楨原)

	町	
	政	へ
望	む	こ
と		

合併後、私の集落のように、町の中心部(役場)から遠い集落ほど行政との距離を感じているのではないのでしょうか。公共交通機関も乏しく高齢化が進む中で、ます

ます住みにくくなっていくのでは...と心配しています。また、今年是全国的に大災害にみまれ、特に農山村部は深刻な打撃を受けています。私の集落で

も、9月初めの豪雨で農道は崩落し、野菜は壊滅的な被害を受けました。被災地、被災者に対しての迅速な対応をお願いします。行政、議会には、距離・時間・金銭的(税金など)になるべく軽い負担で、安心して暮らせる町を目指した予算の使い方を望んでいます。



清見久夫 (中山口)

	つ	
	な	が
生	き	る
こ	と	

この町に生まれてきてよかったよかったです。今生きていてうれしい。そんな願いをもう一度地域の中で、職場の中で、家庭の中で、確認し合って生きていきたい。私はそう願っています。誰もが当たり前に望んでいる。「みんなと仲良く暮らしていきたい」という願い。今みんながつないでいる手と手を生きていく喜びと温もりが伝わっている。みんなの手

と手を 絶対に離しては駄目。手をつないでいれば、生きていても楽しい。手を離してしまえば、誰かが悲しむ。この町に住む人たちが、今よりも、もつともつと私たちがつながつて生きていくんだということを強く思っています。これまでも何度か私たちが皆さんに送り続けた「みんなとつながつて生きたい」というメッセージ。つなぎ合っている。私たちの手と手。これからも、そして大人になっても絶対に離さないでほしい。だって私たちは仲間なんだから。大切な仲間なんだから。

あとがき

実りの秋、真つ盛り。人々は昔から秋の豊作を願ってきた。豊作はお腹も心も豊かにしてくれるからだ。しかし、今年の秋はどうだろう。全国的には3月の東日本大震災、9月の豪雨による大被害と心寒い秋になった。町内でも豪雨によって、ブロッコリーをはじめとする野菜、その他に大きな被害が出た。こういう時こそ、町行政の出番、真骨頂を発揮する時だ。議会も税金の使い方のチェック機能としての機能を発揮する時だ。9月議会では、昨年度決算の認定のほかに、災害対策費や山香荘の整備費などが可決された。果たして、町民のみなさんはどう評価されたのだろうか。

【発行責任者】 議長 野口 俊明
【広報委員会】 委員長 竹口 大紀
副委員長 大森 正治
委員 西山富三郎
委員 池田 満正
委員 杉谷 洋一
委員 米本 隆記

大森